

「相場観マスターブック」

CONTENTS

CHAPTER 1

経済物理学を基にしたアプローチ

P007

CHAPTER 2

ロウソクに秘められた概念を知る

P020

CHAPTER 3

トレードプランの立案方法

P040

CHAPTER 4

相場で繰り返されるサイクル

P082

CHAPTER 5

メンタルの育成方法

P092

-CHAPTER 1-

経済物理学を基にしたアプローチ

私が日々ブログで書いているアプローチ方法は、経済物理学を元にしてしています。ホーミングFXもマニュアルでは難しくなるので書きませんでした。経済物理学の理論を手法に落とし込んだものです。ここでは、経済物理学についてと、それを元にした「FX意識改革ブログ」流の相場理解の方法を解説します。

●経済物理学とは何か？

近年、人はさまざまな方法を使って市場を正確に分析しようとしてきました。その集大成ともいえるものが、ブラックショールズ方程式に象徴される金融工学でした。

市場の変動を統計学や数式で分析し、リスクのない運用を目指したのです。たしかに相場が安定していたときは金融工学の理論は通用していたので、長い間信じられてきました。

しかし、やがて金融工学では説明できないような状況がたびたび訪れることになりました。想定した以上に相場が乱高下して、簡単に暴落を繰り返すのです。暴落の規模はいつもとんでもないものであり、安全と思われていた金融工学はあっけなく崩れ去りました・・・

金融工学の失敗は、市場の変動幅（ボラティリティ）を軽視したことです。市場は、我々が思っている以上に乱高下するものであり、正攻法の「買って上がりを待つ」という投資理論は、たまたま市場が安定期にあるときにしか通用しないのです。

「市場は想像以上に乱高下をするものだ」という前提から投資理論は組み立てなければならないのです。これは現在の金融不安を体験している人たちにとっては、素直にうなずけることではないでしょうか？

金融工学の信頼が崩れていく一方で、市場を自然現象のひとつとみなして、物理的にアプローチする学問が台頭してきました。

それが経済物理学です。

経済物理学は、経済現象を物理学的な観点から解明することを目指した学問です。複雑な要因が絡み合った市場を分析するにおいては、最も合理的な手段であり、これからの時代においてますます発展していく分野であると思っています。

経済物理学というと、難しい数式や専門用語の羅列をイメージするかもしれません。数学の知識がない人はさっぱりだと思うでしょう。

しかし、当教材では、難しい数式など一切出しません。よくある相場の展開を経済物理学の理論を使って、誰にもわかりやすく説明していきます。

当教材の経済物理学を利用した相場へのアプローチは、私独特のものであり、学術の範囲で終わるものではなく、極めて実践的なものです。また、どこかの本に書いてあることではなく、私が長い間相場と相対する中でつかんだ投資哲学です。

経済物理学について、これから個別に実践的な解説をしていきますが、学術的な概要を詳しく知りたい場合は、光文社文庫の「経済物理学の発見」（高安秀樹著）をご参考にしていただければと思います。さらにもう一步踏み込んで専門的なことを知りたいのであれば、東洋経済新報社の「禁断の市場」（マンデルブロー著）をオススメしています。

●経済物理学において重要なキーワード

さて、経済物理学を語るときにおいて、抑えておきたい重要な理論があります。それが以下です。ひとつずつ、実際の相場のケースと合わせてわかりやすくご説明します。どれも難しいことではなく、きつとうなずいていただければと思います。

経済物理学の理論	トレードのどの部分に利用するか？
繰り込み理論	において使う理論です
カオス理論と相転移	において使う理論です
冪乗則	を説明する理論です
フラクタル理論	と、を深めるための理論です

1 繰り込み理論

繰り込み理論とは、物理学の観測の手段のひとつです。簡単にいえば「複雑なものを簡略して観測をする」という方法です。

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

